

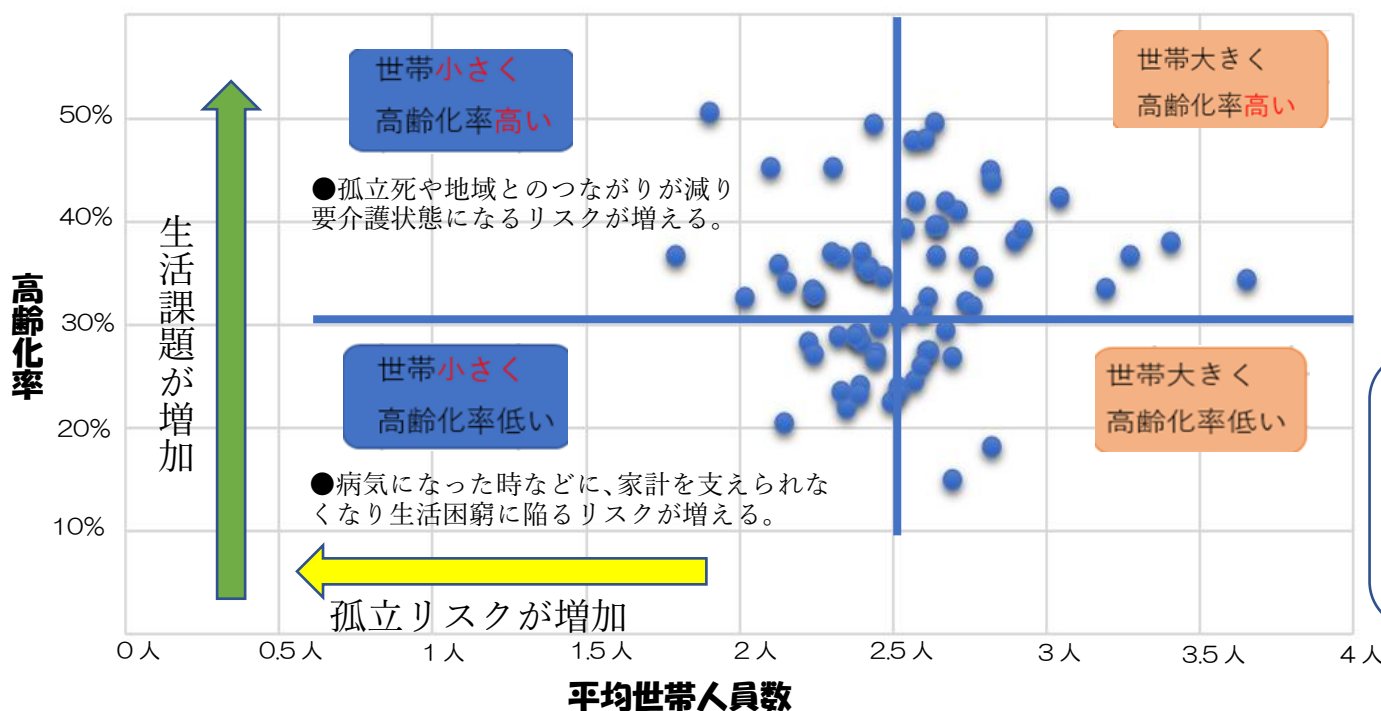
地域福祉を推進する「地域支え合い会議」をはじめませんか

社会福祉協議会では“高齢者が尊厳を保持し、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる地域づくり”を目標に地域支え合い活動を推進しています。

地域支え合い活動とは？

地域支え合い活動とは、社会的孤立を防ぐための交流サロンや、百歳体操などの交流事業や健康づくりの実施、また一人暮らし高齢者等の見守り活動や、日常生活での簡易な困りごと（ゴミ出し等）への対応など、地域住民が主体となり、専門機関や民間事業者などと協働して行う生活を支えるための活動です。

東松島市の高齢化率と平均世帯人員数



高齢化率が高い(高齢世帯が多い)と生活課題が増加し、世帯人員が小さい(家族支援力が低い)と孤立リスクが増加します。仮説として、高齢化率 30%を超えて、平均世帯人員が 2.5 人を切ってくると、地域課題が顕在化してくると言われています。(青線)

東松島市 高齢化率 29.7%
市の平均世帯人員 2.42 人
今後も市全体的に、高齢化率は上がり平均世帯人員数も少なくなると予想されています。



以前は、家庭内や親族内、地域の中で支え合い解決するのが当たり前でしたが、時代の変化と共に生活スタイルが変化し、地域との関係が希薄化し、親族の協力も得られず孤立する世帯が増えています。

地域支え合い活動の推進

地域支え合い活動を推進していくためには、自分たちの住む地区にどのような高齢者等の生活上の課題（ニーズ）があるのかを把握する必要があります。

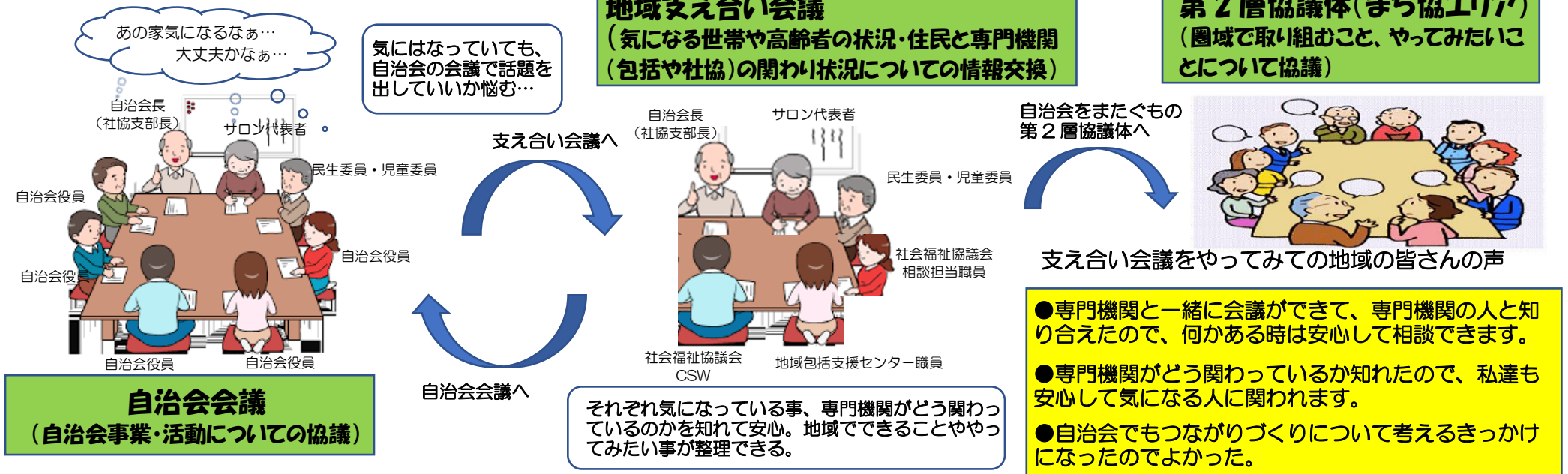
地区の高齢者等、気になる方の生活実態については、自治会役員、民生委員・児童委員、交流サロン代表者などが、気に掛ける中で、各自把握されています。その情報を地域の皆様と社会福祉協議会や地域包括支援センターで共有して、住民、専門機関でできることを協議すること様々な支え合い活動が生まれます。

活動推進のための地域支え合い会議

そういったことから、地域で協議する場として、自治会役員や民生委員・児童委員、交流サロン代表者などの地域住民に加えて、高齢者福祉の専門機関である地域包括支援センター並びに社会福祉協議会の職員などが参加し、地域で気になっている高齢者等（例えば、最近家から出なくなった方など）の情報を共有し対応を話し合う【地域支え合い会議】を社会福祉協議会では広めています。

地域で自治会や民生委員・児童委員、交流サロン代表者が把握した情報を共有する際、個人情報の取り扱いが気になると思います。支え合い会議では会議における個人情報（プライバシー）の取り扱いについては、当該会議で知りえた情報は口外しないことを約束する【誓約書】などを作成して対応しています。

地域支え合い会議のイメージ



【地域支え合い会議】は、安心して暮らすことのできる地域を作れるとともに、様々な方の社会参加や生活支援のきっかけを地域内で作ることのできるひとつの手段にもなります。ぜひ皆様の地域でも【地域支え合い会議】の開催をしてみませんか。